



Power BI

業務変革・ビジネス戦略で効果を上げるデータ活用

5つの事例から学ぶ Microsoft Power BI の活用ポイント

はじめに

ビジネスや事業を推し進める組織では、様々なデータが生まれ、日々蓄積されています。しかし、それらのデータを把握し、目標とのすり合わせを行っているだけでは大きな躍進は望めません。この点にいち早く気づき、データドリブン(*)な施策に取り組む組織が増えてきました。それと同時に“データドリブン経営”を支援するBIツールが脚光を浴びています。中でも Microsoft Power BI は機能性が高く、現場レベルでも導入が容易なことから、注目を集めています。

今回は、Power BI の導入で業務課題をクリアにし、ビジネスの意思決定にデータを生かしている組織の事例を紹介します。どのようにデータを活用し、ビジネス戦略につなげているのか、効果的なBIツール導入を実現するための参考資料として、ご活用ください。

*データドリブン…経験や勘だけに頼らず、データを基にしたビジネス施策や経営の意思決定などを行う業務プロセス

CONTENS

データ活用が組織を飛躍させる決め手	2
「データはわかりやすく可視化」が絶対条件	3
Power BI 導入5つのポイント	4
Power BI 導入／運用の課題を解決するテクバンのサービス	
Power BI 導入支援サービス	6
トレーニングサービス	7
テクニカルサポート	8
セルフBI 自走に向けて	9
Power BI で組織が変わった5つの導入事例	
case.1 AI分析で新商品開発に活路を	11
case.2 勤怠状況を可視化してシフトを最適化	13
case.3 営業の行動を可視化。営業効率の最大化	15
case.4 AI予測で物件管理のリスクを察知	17
case.5 錯綜する勤務体系をひと目で見えるように	19

Power BI 導入5つのポイント

導入後の運用を見据えた、準備が不可欠に

ここまで説明してきたように、Power BI はデータの可視化や分析において優れたBIツールといえますが、導入支援を行うプロの立場から見ると、導入前に必ず押さえておくべき5つの重要ポイントがあります。導入の費用対効果を高めるため、これらのポイントをチェックし、十分な準備を進めていただきたいと思います。



データ整備と管理

適切なデータ品質、抽出環境、セキュリティの整備が必要



ユーザーへの教育

十分なトレーニングで、使い方や意義を理解させる



データ活用の促進

データから意思決定する文化を育て活用を促させる



目的意識の明確化

目的やニーズを把握。データ活用のゴールを明確にする



属人化を避ける運用

特定の人に依存しない体制やプロセスの確立が必要

case.1 食品メーカーの新商品開発 課題編

競合との差別化ができず、売上げが低迷する状況に

ある中堅食品メーカーA社では、堅調な定番商品が売上げを支えているものの、競合商品が増え、現在以上の売上げの増加を見込めない状況です。このため、新たな収益の柱にするべく新商品の開発・投入を繰り返していますが、ここ数年、期待に見合う商品は出ていません。新商品の開発に成功しなければ、企業存続が危うくなることは自明です。なぜ商品開発に失敗するのでしょうか。実はA社では、社長をはじめ経営陣や経営企画部の思いつきに頼った商品開発を行っていたのです。この商品開発のプロセスでは人の勘や経験、思いつきに頼っているため、方向性や判断の指針が不透明。うまくいかなかった原因もわからず、次々「思いつき」商品が誕生するばかりです。

また、市場の変化や顧客ニーズに合わせた商品開発をスピードアップさせる必要があるにもかかわらず、開発に必要なデータの収集や分析を積極的に行っていなかったのです。